

2. 公益事業区分(平成 29 年度 実績)

(1) 聴覚障害者公益支援拠点一地域生活支援等事業サービス

① 障害者スポーツ普及事業

主な大会	日 程	主な会場
北信越ろうあ者体育大会 卓球競技	6 月 24 日(土)～25 日(日)	新潟県上越市
全国ろうあ者体育大会 卓球競技	9 月 22 日(金)～23 日(土)	静岡県藤枝市
全国ろうあ卓球リーグ戦	11 月 03 日(金)	東京都
全国ろうあ者卓球選手権大会	平成 30 年 01 月 07 日(日)	新潟県長岡市

《1》活動方針：練習・試合を通じ、卓球部員の技術育成向上をはかる。

《2》練習活動：以下の予定。

- 【1】練習日：隔週土・日
- 【2】年間回数：40 回
- 【3】会 場：石川県立ろう学校体育館 他
- 【4】部員数：15 人

《3》成果と課題

【1】成果

北信越ろうあ者体育大会では混合ダブルス戦で優勝、男子・女子団体戦、男子・女子ダブルス戦、個人戦で準優勝。全国ろうあ者大会では、個人戦で 8 位入賞。全国ろうあ者卓球リーグ戦 5 位、全国ろうあ者卓球選手権 7 位入賞など、日頃の練習の成果を発揮することができた。また、練習や試合を通じて、選手の技術向上及び、忍耐力と協調性を養うことができた。加えて県内外の様々な大会へ出場し、大勢のスポーツ関係者と交流することができた。

【2】課題

選手の増員及び、全国ろうあ者体育大会や他の全国大会における個人戦の入賞。

②聴覚障害者生活訓練事業

受託先	日程	会場	サービス提供時間数		参加状況	
			日数	時間数	総参加者数	
能登 北部 圏域	輪島市 珠洲市 穴水町 能登町	7月18日～11月21日	奥能登行政センター 他	6日間	24時間	24
七尾市	11月11日～11月25日	ワークパル七尾	2日間	7時間	16	
中能登町	6月3日～9月5日	ラピア鹿島	5日間	20時間	30	

《1》目的：病気や加齢による聞こえの問題を持つ難聴者・中途失聴者に対して、要約筆記や磁気ループによる情報システムを紹介し、福祉制度や福祉機器の利用によって日常生活の質の向上をはかる。

《2》サービス内容：以下の通り。

- 【1】要約筆記・磁気ループの体験
- 【2】福祉制度の説明
- 【3】筆談によるコミュニケーション体験
- 【4】個別相談等

《3》成果と課題

【1】成果

- ・ボランティアに関心のある方や家族単位での参加もあり、聞こえにくい当事者とその身近な人が相互理解を深めることができた。
- ・情報保障を活用した実体験や簡単な手話などを参加者間で伝え合うことで、交流・ピアカウンセリングだけでなく実用性の高い情報交換ができた。

【2】課題

- ・参加者と地域の聴覚障害者協会や支援者を繋ぐための連携。
- ・高齢参加者への見やすさやわかりやすさの配慮。

③聴覚障害者 IT サポートセンター運営事業

事業内容	備 考		
パソコン等の操作に関する相談	37 件		
ボランティア派遣	延 15 件 (利用者 8 名)		
ボランティアの委嘱(登録)	延 29 名		
パソコン個別指導	延 29 件 (利用者 10 名)		
IT 集団指導	日程	平成 30 年 1 月 27 日(土)	平成 30 年 3 月 10 日(土)
	テーマ	初級パソコン講座	スマートフォン・ タブレット学習講座
	主な会場	PC 学院 (金沢市西念)	石川県聴覚障害者センター
	参加者数	9 名	32 名

【成果と課題】

【1】 成果

集団指導の際、意思疎通支援に係わる経費を石川県の社会参加促進事業から補填してもらうことができた。その結果、専門性の高い講師を招き、研修会を 2 度開催することができた。

【2】 課題

①集団指導の充実。これに伴う運営費の担保。②ボランティアの拡大。③事業啓発。本事業の目的は、相談と指導である。個人情報にかかわる設定や修理等の「作業」をボランティアへ課すのは困難であり、トラブルが懸念される。正しい事業の啓発が必要である。

(2) 聴覚障害者公益支援拠点－講習会等事業サービス等

① 手話及び要約筆記関係講習会事業(単発啓発講座等)

依頼	手話関係講習会事業(学校・単発啓発講座等)						要約筆記関係講習会事業(学校・単発啓発講座等)						
	依頼 件数	クラス	時間	講師派遣人数 (のべ数)		受講 者数	依頼 件数	クラス	時間	講師派遣人数 (のべ数)		受講 者数	
				聴者	ろう者					聴者	難聴者等		
教育	大学	1	1	32 時間	16	3	17	1	1	2 時間	1	0	13
	専門学校	3	4	48 時間	32	6	57	0	0	0 時間	0	0	0
	小・中・高	3	3	8 時間	4	11	121	0	0	0 時間	0	0	0
	ろう学校	1	1	7 時間	0	7	23	0	0	0 時間	0	0	0
	小計	8	9	95 時間	52	27	218	1	1	2 時間	1	0	13
公的機関	2	2	8 時間	2	7	60	0	0	0 時間	0	0	0	
団体	1	1	1 時間	2	1	5	0	0	0 時間	0	0	0	
企業	0	0	0 時間	0	0	0	0	0	0 時間	0	0	0	
計	11	12	104 時間	56	35	283	1	1	2 時間	1	0	13	

【成果と課題】

【1】 成果

手話： 石川県手話言語条例制定の影響により公的機関や団体からの依頼があった。

要約： 講座を機に大学で機材の補充が行われたため、学生の体験学習がスムーズに行われた。

【2】 課題

手話： 受講人数や対象者、依頼内容（講義・手話実技）が多岐に亘るため、講師にはさまざまなニーズへの対応が求められる。また、平日日中の依頼が多く、応じられる講師の増員・確保が課題である。

要約： ノートテイク支援の現場でのニーズを把握し、より効果的な講習を実施すること。

②書籍事業(書籍普及活動)

内 容			冊 数		
全日本ろうあ連盟関係	厚生労働省認定 テキスト普及数	手話奉仕員養成関係	入門課程	186	
			基礎課程		
			その他		8
			手話通訳者養成関係	通訳Ⅰ課程	8
				通訳Ⅱ課程	13
				実践・通訳Ⅲ課程	20
				その他	12
	小計			247	
	一般書籍普及数	季刊MIMI		506	
		差別事例分析報告書		173	
		その他		272	
小計		951			
その他の書籍の普及数			7		
計			1205		

【成果と課題】

【1】 成果

障害者差別解消法施行後に発行された書籍「よくわかる！聴覚障害者への合理的配慮とは？」に続き、「差別事例分析結果報告書」が販売され、関係者に幅広く普及した。『わたしたちの手話学習辞典Ⅰ・Ⅱ』も年間通して人気があり、継続して注文がある。「季刊MIMI」は2016年度より購読者が増え、県内全域に多く普及した。

【2】 課題

購買者の需要を把握し、書籍在庫の充実を図る。

③機関紙「ニュースろうあ石川」事業

昭和 58 年 3 月 15 日 第 3 種郵便認可による郵便物

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
贈呈・交換部数	95	95	95	95	95	96	96	96	96	97	97	98
読者数部数	792	796	792	829	829	817	799	783	776	768	766	768
計	887	891	888	924	924	913	895	879	872	865	863	866

「交換」は全国の聴覚障害者情報提供施設、ろうあ協会事務所等／「贈呈」は県内行政機関等

【成果と課題】

【1】成果

新しいコーナーとして「ろうあ運動はどこへ向かおうとしている？」を掲載。新規購読者や手話等学習者などに向けろうあ運動に対する知識や理解を広めた。

【2】課題

非会員(購読会員)の減少を主な原因として発行数の減少が続いている。手話等学習者や協会活動に携わる関係者へ機関紙の意義について理解を求めながら、購読継続を訴えていきたい。養成講座の場で講師が教材として語り、活用できるよう促していきたい。

④第 12 回全国手話検定試験の実施

試験内容	期 日	会 場	結 果			
			受験申込者	受験者	合格者	
5 級試験	10 月 14 日	石川県社会福祉会館	38 名	36 名	35 名	
4 級試験			39 名	39 名	37 名	
3 級試験	10 月 15 日		58 名	54 名	47 名	
2 級試験			14 名	13 名	5 名	
4 級試験	2 月 24 日		石川県立ろう学校 (団体受験)	8 名	8 名	8 名
3 級試験				10 名	10 名	10 名

【成果と課題】

【1】成果

より幅広く手話技術を試せるよう、石川会場として 2 級試験を新たに実施した。また、県立ろう学校の教職員向けの団体受験実施にあたり、面接委員等の派遣に協力した。

【2】課題

あらゆる手話学習者へ向けた啓発。面接委員の増員・スキルアップ。